米子工業高等専門学校

リベラルアーツセンターだより

第6号
2022年3月

National Institute of Technology, Yonago College　Center for Liberal Arts　Letter vol. 6

「KOSENフォーラム2021」オーガナイズドセッション「高専教育におけるリベラルアーツの具体化の方途―理念・カリキュラム・組織」を開催

オンラインで開催

KOSENフォーラム（目的：教職員の資質や高専の教育・研究のポテンシャルの向上を目指すこと）が2021年12月13・14日にオンラインで開催され、本校は14日午後に、オーガナイズドセッション「高専教育におけるリベラルアーツの具体化の方途―理念・カリキュラム・組織」を企画・実施しました。

理工系大学から知見を得ようと、今年度「教養教育研究院」を新設された東京理科大学の愼蒼健院長に基調講演をお願いしました。愼院長から、同大学の「教養改革」、「教養教育の目標」、「教養教育研究院」の設置、TUSくさび形教養教育カリキュラムについて順を追って説明いただきました。

高専からは、①熊本高専リベラルアーツ系長の伊藤利明教授が「熊本高専熊本キャンパスにおけるリベラルアーツ科目の実践報告」、②本校リベラルアーツセンター員の竹内彰継教授が「失敗学のすゝめ」をそれぞれ発表し、質疑や意見交換を行いました。全国から聴講（参加）いただきました。

本校は「リベラルアーツセンター」を設置し高専教育におけるリベラルアーツの教育・研究を推進しています。このセッションを今後の活動や実践につなげていきたいと思います。

【趣　旨】

高専における創造的・実践的技術者の育成において、これまで培われてきた専門教育とともに、社会経済環境の変化に伴って、リベラルアーツの必要性・重要性にも意識が高まりつつある。

東京工業大学ではリベラルアーツ研究教育院が設置されており、昨年度のフォーラムで基調講演していただいた。東京理科大学でも今年度、教養教育研究院を設置され、来年度から新たなカリキュラムをスタートされる。高専においても熊本高専のように、カリキュラムや組織改編でリベラルアーツを掲げる事例がある。米子高専は平成28年度にリベラルアーツセンターを設置した。

本セッションでは、理工系大学においてリベラルアーツ重視のケースに学ぶとともに、大学とは異なる面も持つ高専のリベラルアーツの理念・目標・カリキュラム・組織などについて講演や報告、パネルディスカッションを通して議論し、その構築を目指した情報発信も図るものである。

【構　成】

1）趣旨説明
米子高専　リベラルアーツセンター・センター長　加藤　博和

2）基調講演
「東京理科大学における教養教育について」　東京理科大学　教養教育研究院・院長　愼　蒼健

3）講演
①「熊本高専熊本キャンパスにおけるリベラルアーツ科目の実践報告」
熊本高専　リベラルアーツ系・系長　伊藤　利明
②「失敗学のすゝめ」　米子高専　リベラルアーツセンター・センター員　竹内　彰継

4）質疑・パネルディスカッション

基調講演と各講演の資料を収録した報告書を作成し、当センターのホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。

National Institute of Technology, Yonago College

■リベラルアーツセンター・ホームページ　https://www.yonago-k.ac.jp/tosho/liberal_arts.html

〒683-8502　鳥取県米子市彦名町4448　TEL：0859-24-5028　E-mail：gakujo@yonago-k.ac.jp

「コレクション宅配便」による対話型鑑賞の授業 鳥取県立博物館と連携

鳥取県立博物館が主催されている「学校＆地域でアート『コレクション宅配便』」を、12月15日（水）５・６限に、３年建築学科の授業で実施しました。同館の美術コレクションをより多くの層に身近な場所で鑑賞し親近感と関心を持ってもらうことを目的とした事業（「鳥取県立美術館整備推進事業」）で、「とっとりプラットフォーム５＋α」（鳥取短期大学・鳥取看護大学を中心に鳥取大学・公立鳥取環境大学・本校などが参加）を通じて本校でも初めて実施することになりました。

当日は、県立博物館から版画作品と彫刻・工芸作品を合計11点、本校に搬入していただき、図書館１階・２階のフロアを使って上記の授業を行いました。グループ毎に作品を鑑賞して感想などを自由に述べ合いました。

授業内容の説明

鑑賞の様子

鑑賞の様子

鑑賞の様子

鑑賞の様子

感想などの発表

受講した学生の主な感想を紹介します。

- 普段、美術作品を見ることがないので、このような機会があって良かった。
- 作品について対話をしっかりしたのは初めてで、人の意見を聞くと新しい発見があってとても面白かった。
- 初めてこんなにじっくり美術作品を見たり、複数人で見ることで違う意見を聞いたりできたので、人間に対して興味がわいた。
- 授業前は何のために絵を描いたり作品を作ったりしているのだろうと思っていたが、正解がない、あるいは全部正解ということをどんな人にも与えるのが美術の良いところだと感じた。
- 答えがなかったから、自分の意見を言えて楽しかった。これから美術作品を見るときも自分で考えられるようになったら面白いと思った。
- 発想力が鍛えられた。
- 想像力が深まった。
- 視野が広がっていく感じが楽しかった。
- 自分が思った考えや感情は言葉にしづらくてうまく伝えられなかったが、他の人のように素直に思いを言えるようになりたいと思った。
- 話しながら鑑賞するのが新鮮だった。美術館に行っていろんな作品を見てみたいと思うようになった。
- 普段、美術品を見るとき、その作品の意味を作者の考えに任せてしまっているけど、今回初めて自分で考えるという作業をしてみて、自由に見ていいのだと気づけた。今後（自分が）作品作りをする上で、自由な発想ができそう。
- 作品が多くていろいろ見られたのは良かったが、時間がもうちょっとあればいいと思った。

実施に当たりご協力いただいた県立博物館の皆様に感謝申し上げます。

対話型鑑賞とは…

1980年代半ばにニューヨーク近代美術館（アメリカ）で開発されたアートの鑑賞法で（Visual Thinking Strategies）、美術の知識を基にするのではなく、その場で抱いた感想や想像をベースに対話を行うという特徴があり、鑑賞者は作品の背景や技法、作者の生涯といった情報を抜きにして作品に向き合う。近年、企業研修や医学教育などでも行われている。STEAM教育のArt（芸術・教養）にも関連するといわれる。

授業終了後も他の学生が鑑賞できるよう15時まで、美術コレクションを展示していただきました。県立博物館（鳥取市）まで行くには遠いですが、本校にいて本物の作品に触れることができました。鳥取県では令和６年度（令和７年春）に倉吉市に鳥取県立美術館がオープンする予定です。

図書館内（および校内）には、田村憲二氏（米子市生まれ、大正７年～平成18年）の描かれた絵画（寄贈）が多数掲げられています。これらの絵画や館内の美術工芸品を用いた対話型鑑賞の授業の２回目を２月17日（木）に開催する予定にしていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行状況に鑑み、中止しました。

今後とも芸術に触れる機会を持ちたいと思います。

展示作品／実際に触れて鑑賞する５年生
（右端は県立博物館の学芸スタッフの方）

「ビブリオバトル」を開催　図書館と共催

図書館・リベラルアーツセンターでは、「ビブリオバトル」を、11月15日（月）16時10分から合同講義室で開催しました。ビブリオバトルのルールは、下記のようになっています（「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」より）。

公式ルール

❶発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。

❷順番に一人５分間で本を紹介する。

❸それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分行う。

❹全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

たったこれだけのルールで、遊べば読書がスポーツに変わって、本を読むのが楽しくなる！
いろんな本に巡り会えて、どんどん世界が広がる！
そんなコミュニケーションゲームです。
また、紹介の際にはシンプルに本とカウントダウンタイマーだけ。
あとは、ライブでアドリブで本について語ります。

今回はプレゼンの時間を（公式ルールより短い）３分間で行うことにして、出場者（バトラー）を全学生から募集したところ、６名の学生がエントリーしてくれました。

当日は、出場者・観戦者合わせて27名（学生20名、教職員７名）が集まりました。

出場者が順に一人３分間で本の紹介をした後、ディスカッションの時間も取りました。「どんな時に読みましたか？」「この本と出合ってあなたにどんな変化がありましたか？」など参加者からの質問に出場者が答え、ビブリオバトルを深めることができました。

そして、「一番読みたくなった本」を基準に参加者が投票を行い、「チャンプ本」（最優秀賞）と、次点の優秀賞を決めました。

参加者からは、「ミステリーが好きなため選んだ。どんなトリックなのか気になった。６冊とも今度読もうと思う」、「『推し』という言葉にひかれた」、「普段、フィクションを多く読むが、ノンフィクションの本も読んでみたいと思った」、「初めて聞きに来たが、面白そうだなと思う本が多く、今度読んでみようと思った」などの感想が寄せられました。

出場者のプレゼンの様子

出場者からも、「意外と感じるのが『自分が発表した本と向き合えてよかった』ということ。発表内容を考えている間に選んだ本のことがもっと好きになれ、参加してよかったと思えた」などの感想がありました。

ビブリオバトルは、来年度も開催したいと思います。今回出場してくれた学生、観戦してくれた学生や、ビブリオバトルに興味を持った学生、皆さんの参加を楽しみにしています。

（図書館報『としょぶらり』第112号に詳報を掲載していますので、ご覧ください。）

図書館活用のすゝめ

当センターでは、図書館に、東北大学教養教育院（編）による『東北大学教養教育院叢書』（東北大学出版会）などをリベラルアーツ図書として購入しました。同叢書は、大学と教養１：教養と学問、大学と教養２：震災からの問い、大学と教養３：人文学の要諦、大学と教養４：多様性と異文化理解、大学と教養５：生死を考えるです。

また、校内で実施した「読書感想文コンクール」の入賞作品の本や、「ビブリオバトル」で紹介された本、「本屋大賞」などに選ばれた本などを、後援会の図書館支援費を活用して購入しています。

いろいろな本と出合って、読んで、人間形成や興味・関心の幅を広げることに役立ててほしいと思います。

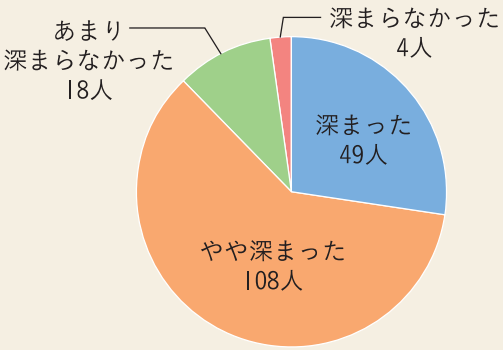
国際性を涵養する講演会　国際交流推進室と連携

授業の様子

本校・国際交流推進室の主催で、1年生の合同ホームルーム（11月16日（火）：グローバルエンジニア育成講演会）で、松本卓朗さんの講演「グローバルに働いたこと」を聴く機会がありました。松本さんは、本校・電気工学科（現・電気情報工学科）の卒業生で、医療機器メーカー勤務の後、ワーキングホリデーでオーストラリアに渡り、豊橋技術科学大学への編入を経て、「国境なき医師団」に就職、現在に至っている方です。

３年生には授業の一環として、リベラルアーツ特別講演として、録画映像を用いて、全クラスで聴講しました。

アンケートでは約88％の学生が「講演内容について興味・関心が深まった」「やや深まった」と回答し、約94％の学生が「講演は大変役に立つ」「まあ役に立つ」内容だったと回答していました（回答：179名）。



講演内容についての興味・関心

さまざまな感想や質問なども寄せられました。

・英語についてや大学編入の利点などを知ることができたのでよかった。また、グローバルで働くことについても知ることができてよかった。
・海外の人とコミュニケーションをとるときに意識することはあるか。
・「海外での様々な活動やそれまでの過程で固定観念にとらわれなくなった。」とおっしゃっていたが、他に視野を広く持つきっかけとなった事はあったか？また、「視野を広げるには〇〇をしたら良いのではないか。」等考えがあったら教えてほしい。
・どうやって不安を拭って挑戦できたのか？楽しみもあるけれど不安が打ち勝つと思うので。
・戦争や紛争が盛んなところに行っていて、今まで自分の命が危ない時があったか？
・「国境なき医師団」のホームページを見たら履歴書は英語自由形式で書かないといけないとあった。内容はどのようなものか？
・「国境なき医師団」として働いているときの毎日の生活についてもっと詳しく知りたい。また、英語の勉強方法も知りたい。

米子高専数学・科学振興会:「とっとりサイエンスワールド2021」【開催中止】

小・中学生を対象に、算数・数学パズルや科学実験などを通じて算数・数学・科学の面白さを体感してもらおうと、「米子高専数学・科学振興会」主催（リベラルアーツセンター共催）による「とっとりサイエンスワールド2021」を８月21日（土）に米子市児童文化センターで開催予定（定員100名）で準備していましたが、県内の新型コロナウイルスの感染急拡大により、中止しました。

「リベラルアーツ講演会」の延期

学生向けのリベラルアーツ講演会を企画して講師の先生方と日程調整も終えていましたが、１月半ばから新型コロナ対応のため遠隔授業となり、学年末試験後も講義形式の授業について再検討することとなったことから、講演会は来年度に延期することにしました。

編集後記

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染「第６波」の只中にあり、依然として18都道府県にまん延防止等重点措置が適用されています（３月21日で解除予定）。本校でも１月中旬から遠隔授業に切り替わり、学年末試験は１年生だけが登校して受ける形となりました。学生向けのリベラルアーツ講演会は、昨年度は３回開催（12月～２月）しましたが、今年度は開催できずに終わり、来年度に持ち越すことにしました。「とっとりプラットフォーム５＋α」を通じて鳥取県立博物館所蔵の美術品を本校に搬入していただいての対話型鑑賞や、図書館と共催での「ビブリオバトル」などを実施して、芸術（STEAM教育のＡ）や読書とリベラルアーツとの結びつきを強めていきたいと思いました。KOSENフォーラムのオーガナイズドセッションは東京理科大学教養教育研究院の愼院長に基調講演を、熊本高専リベラルアーツ系の伊藤系長に講演をそれぞれご快諾いただき、コロナ禍ですが、オンライン（リモート）のメリット理解やスキル向上なども伴ってきて、本校をホストにして継続的に開催することができ、ありがたく存じます。リベラルアーツについて引き続き考えていきたいと思います。　（リベラルアーツセンター長　加藤 博和）